

原 著

# 新人看護師のコミュニケーションスキルの問題点とPCエゴグラム

大重 育美

Problems of the Communication Skills in First-year Nurses and  
Permeability Control Power Ego States

Narumi OOSHIGE

## 要 旨

新人看護師の早期離職として、看護技術の未熟さとともに患者や職場の人間関係を調整できないコミュニケーションスキルの低下も要因である。そこで、本研究では新人看護師のコミュニケーションスキルに関して自己評価表を用い、その問題点を明らかにする。同時にコミュニケーションスキルに個人の内的要因が影響することを活かして、個人特性を測るPCエゴグラムを用いることで、新人看護師のコミュニケーションスキルとPCエゴグラムとの関連を明らかにする。

A病院の新人看護師22名を対象に調査を実施し、コミュニケーションスキル、PCエゴグラムの関係性を分析した。新人看護師のコミュニケーションスキルとして、傾聴・共感が高く、判断で得点が下がっていた。PCエゴグラムではNPとACが高かった。コミュニケーションスキルとPCエゴグラムの関係性では傾聴とCP、A、NPと正の相関関係 ( $p<.05$ ) があった。

その結果、新人看護師のコミュニケーションスキルの問題点としては、「傾聴」を基盤としながらも「判断」する過程でコミュニケーションスキルを活かせない場合があり、その影響要因としてNP、AC優位なエゴグラムが示唆された。

キーワード：新人看護師, コミュニケーションスキル, PCエゴグラム

## Abstract

Nursing requires professional communication skills. However, along with poor nursing skills, the decline in communication skills to coordinate interpersonal relationships with patients and co-workers is a major factor for the high turnover rate of first-year nurses. Thus, we conducted a self-administered questionnaire survey of first-year nurses to evaluate their communication skills in order to clarify problems related to such skills. Also, in light of the influence of personal traits on communication skills, we considered that it would be useful to assess personal traits employing the Permeability Control Power Egogram and compare the results of self-evaluated communication skills and Permeability Control Power Egogram.

We conducted a survey of 22 newly-employed nurses working at Hospital A and analyzed the relationship between their communication skill scores and Permeability Control Power Egogram scores employing Spearman's rank correlation coefficients. Regarding first-year nurses' communication skills, their scores were high for attention/sympathy and low for judgment. Regarding the Permeability Control Power Egogram, they achieved high scores for NP (Nurturing Parent) and AC (Adapted Child). Regarding the relationship between

---

所 属：

長崎県立大学 シーボルト校 看護栄養学部看護学科

Department of Nursing Faculty of Nursing and Nutrition University of Nagasaki, Siebold

the communication skill and Egogram scores, there was a positive correlation between the scores for attention and CP (Critical Parent), A (Adult), and NP (Nurturing Parent) scores ( $p<.05$ ).

The results suggested that, while new nurses' communication skills are sufficient in "attention", they may not be able to effectively use the communication skills to "judge" in light of their NP- and AC-dominant Egogram scores.

key Word

First-year nurses, Communication skills, Permeability Control Power ego states

## I. 緒 言

コミュニケーションスキルは、看護実践における基礎的な共通技術であり、看護師にとって必要不可欠な技術といえる。しかし、コミュニケーションスキルの低下が新人看護師の離職率に影響している<sup>1)</sup>ことが明らかとなり、コミュニケーションスキルの向上が継続的な課題となっている。

新人看護師の早期離職の具体的な理由として、「患者および家族とコミュニケーションがとれない」などがある<sup>2)</sup>。このように新人看護師では、看護技術の未熟さとともに患者や職場の人間関係を調整できないというコミュニケーション能力の低下が早期離職の一つの要因となっている。

看護師のコミュニケーション能力には、一般的コミュニケーション能力に加えて専門的コミュニケーション能力が必要である<sup>3)</sup>。特に新人看護師は、入職後すぐに専門的コミュニケーション能力を求められる中で、急激な環境の変化に順応できずにとまどいかつ社会人としてのマナーおよび常識が身につけていない場合が多いことからカルチャーショックを受けやすい<sup>4)</sup>と指摘されている。そのため、新人看護師の早期離職の要因でもあるコミュニケーションスキルの問題点を探るためにその能力を数値化した評価をすることで、卒前卒後の支援体制の方向性が導き出せると考えた。

また個人のコミュニケーションスキルへの影響要因として、情意的側面が大きく影響するといわれているが<sup>6)</sup>、これまで個人の性格など内的要因に関して焦点化される研究は少なかった。限られた研究の中に看護師としての適性をみるには、内的要因の客観的データとしてエゴグラムが有用という報告がある<sup>7) 8)</sup>。

エゴグラムは、看護学生を対象に東大式エゴグラムとコミュニケーションスキル尺度を用いて、コミュニケーションスキルの特性によって自我状

態が異なることが報告されており<sup>9)</sup>、個人のコミュニケーションスキルの特性の影響要因として応用できると考えた。さらに従来のエゴグラムに自我状態を適切に切り替えることができるPC(透過性調整力)を新たに加えたPCエゴグラムがある。PCエゴグラムは、看護学生の成長過程をみることで教育評価や看護師の適性評価に用いられ、その有効性が報告されている<sup>10)</sup>。

以上を前提として、本研究は新人看護師のコミュニケーションスキルの問題点を抽出し、PCエゴグラムとの関連を明らかにすることを目的とした。

## II. 用語の定義

コミュニケーションスキルとは、いかなる状況でも、適切なコミュニケーション行動を実行できる能力のことである<sup>11)</sup>。

## III. 方 法

### 1. 対 象

新人看護師の入職が毎年約20名程度のN県の一般医療施設A病院に2008年度入職した新人看護師22名を対象とした。

### 2. 調査期間

2008年6月～7月

### 3. 調査方法

コミュニケーションスキル調査票とPCエゴグラム調査票の2種類の質問紙を用いて、新人看護師の全員研修後に質問紙を配布し記載を依頼した。本研究は、横断的デザインによる調査研究である。

### 4. 調査尺度

#### 1) コミュニケーションスキル尺度の調査票

中村らのコミュニケーションスキル尺度<sup>5)</sup>を用いた。評価の下位尺度は、傾聴4項目、共感

4項目、判断4項目、表出5項目の計4要因17項目であり、コミュニケーションプロセスに沿った内容となっている。回答は、「十分出来る」5点から「全く出来ない」1点までの5段階リッカート尺度が用いられている。この評価票のCronbach's  $\alpha$ 係数は0.88と高く、信頼性は確保されている。

## 2) PCエゴグラム調査票

PCエゴグラムは、交流分析理論に基づいて、桂・新里・水野により開発された70項目からなる質問紙法による既存の心理検査<sup>12)</sup>である。交流分析理論に基づき、5つの自我状態としてCP (Critical Parent、批判する私)、NP (Nurturing Parent、やさしい私)、A (Adult、考える私)、FC (Free Child、自由な私)、AC (Adapted Child、人に合わせる私)と、これらを調整するPC (Permeability Control Power、透過性調整力)の合計6つの指標から構成されている。採点法は「○、△、×」の3段階を「2点、1点、0点」と得点化し測定する。採点方法については検査用紙に記載されているため、自己採点が可能であり、PCエゴグラムが簡便に作成できる。PCエゴグラム調査票は、標準化された尺度であるため、各自我状態の得点を標準値と比較し評価できる。標準値は、CP:10点、NP:14点、A:11点、FC:14点、AC:12-13点、PC:12点である<sup>12)</sup>。

## 5. 分析方法

コミュニケーションスキル尺度の要因および項目別に平均値(±標準偏差値)を算出し、要因間の比較するために百分率で換算(以下、「%換算値」という)した。PCエゴグラムの得点は平均値(±標準偏差値)を算出し、標準値と比較した。PCエゴグラムの各自我状態の関連には、Spearman順位相関係数を用いた。さらにコミュニケーションスキル尺度の4要因とPCエゴグラムの各自我状態の関係をSpearman順位相関係数で分析した。相関関係の強度は、弱い相関関係( $\gamma=0.3\sim 0.4$ )、やや強い相関関係( $\gamma=0.5\sim 0.6$ )、強い相関関係( $\gamma=0.7\sim 0.8$ )に区分した。いずれも有意水準は5%未満とした。統計ソフトは、IBM SPSS ver.21を使用した。

## 6. 倫理的配慮

個人が特定されないように名前および所属部署等は排除し年齢および性別など研究に必要な情報のみをコード化して解析した。調査の参加については本人の自由意志であること、一旦同意を得た後でも研究途中であっても中断できること、その際に対象者が不利益を被らないこと、研究結果の公表を専門学会で行うことを口頭および文書にて説明して同意を得た。なお、本研究はA病院の看護部倫理審査委員会および九州大学大学院医療経営管理研究倫理審査専門委員会の承認を得た。

## IV. 結 果

### 1. 対象者の属性

対象者は新人看護師22名で、その内回答があったのは20名であった(回収率91%)。男性4名女性16名であった。対象者の平均年齢24.2歳(±5.3歳)であった。

### 2. 新人看護師のコミュニケーションスキル尺度(表1)

以下、コミュニケーションスキル尺度の要因は『 』、項目は「 」で表した。

要因別の%換算値は、『傾聴』79.3%、『共感』77.0%、『表出』74.0%、『判断』60.3%の順であった。『傾聴』では、「うなずいたり、微笑んだりして話が聞ける」、「目の高さを相手に合わせている」という非言語的コミュニケーションスキルで高い得点であった。『共感』の「必要時にタッチングを用いることができる」は、スキンシップによる非言語的コミュニケーションスキルを含めて『傾聴』に次いで高い得点であった。『表出』の「ケアの目的や意図を伝えることができる」、「丁寧な言葉遣いができる」が「専門的知識を活用した説明ができる」より高かった。『判断』では、「相手の反応により自分の意図を調節できる」が最も低かった。

表1 新人看護師のコミュニケーションスキル尺度

		平均 (SD)	平均 (SD)	%換算値
傾聴	相手に対する態度は明るく、印象よくしている	3.7 (0.7)	4.0 (0.5)	79.3
	うなずいたり、微笑んだりして話が聞ける	4.2 (0.7)		
	目の高さを相手に合わせている	4.0 (0.8)		
	相手の話を良く聴くことができる	4.0 (0.6)		
共感	相手の立場や気持ちになって考えることができる	3.9 (0.4)	3.9 (0.4)	77.0
	相手の話や態度から状況をイメージできる	3.9 (0.7)		
	必要時にタッチングを用いることができる	3.8 (0.5)		
	相手の考えや気持ちを理解して、確認できる	3.9 (0.5)		
判断	人の言動に左右されない	3.0 (0.9)	3.0 (0.6)	60.3
	思い込みが少ない	3.0 (0.9)		
	相手の反応により自分の意図を調節できる	2.6 (0.9)		
	知識に基づいた状況判断ができる	3.2 (0.7)		
表出	必要なことを専門用語を使わないでわかりやすく説明できる	3.5 (0.7)	3.7 (0.7)	74.0
	専門的知識を活用した説明ができる	2.8 (0.6)		
	ケアの目的や意図を伝えることができる	3.8 (0.6)		
	丁寧な言葉遣いができる	3.8 (0.8)		
	相手の考えや気持ちに近づくために「はい」「いいえ」では答えられない問い方ができる	3.7 (0.7)		

平均(SD)は、平均(標準偏差)を示している。

3. 新人看護師のPCエゴグラム (表2)

CP8.5 (±2.8) 点、NP15.3 (±2.9) 点、A10.3 (±4.3) 点、FC13.5 (±4.1) 点、AC14.9 (±3.4) 点、PC10.4 (±5.0) 点であった。NP、AC、FC、PC、A、CPの順で高かった。標準値と比較して、NPとACの2つの自我状態が高く、CP、A、FC、PCの3つの自我状態が低かった。

4. PCエゴグラムの自我状態間の関連 (表3)

PCでは、NPを除くCP、A、FCとやや強い正の相関 ( $\gamma=0.4\sim0.6, p<0.05$ )、ACとやや強い負の相関 ( $\gamma=-0.6, p<0.05$ ) と計4つの自我状態と関連があった。CPでは、Aを除くNP、FC、

PCとやや強い正の相関関係 ( $\gamma=0.4\sim0.6, p<0.05$ )、ACとやや強い負の相関関係 ( $\gamma=-0.6, p<0.05$ ) 計4つの自我状態と関連があった。NPでは、FCとやや強い正の相関関係 ( $\gamma=0.6, p<0.01$ ) であった。FCでは、PCとやや強い正の相関関係 ( $\gamma=0.5, p<0.05$ )、ACとやや強い負の相関関係 ( $\gamma=0.5, p<0.05$ ) であった。

5. 新人看護師のコミュニケーションスキル尺度とPCエゴグラムの関連 (表4)

傾聴では、CP、NP、Aでやや強い正の相関関係 ( $\gamma=0.5\sim0.6, p<0.05$ ) であった。

表2 新人看護師のPCエゴグラム

(n=20)

	CP	NP	A	FC	AC	PC
平均値 (SD)	8.5 (2.8)	15.3 (2.9)	10.3 (4.3)	13.5 (4.1)	14.9 (3.4)	10.4 (5.0)
PCエゴグラムの標準値	10	14	11	14	12~13	12

平均(SD)は、平均(標準偏差)を示している。

表3 PCエゴグラムの自我状態間の関連

(n=20)

	NP	A	FC	AC	PC
CP	0.5*	0.4	0.6**	-0.4*	0.6**
NP		0.1	0.6**	-0.2	0.2
A			0.1	-0.2	0.4*
FC				-0.5*	0.5*
AC					-0.5*

Spearman順位相関係数

\*  $p < 0.05$  \*\*  $p < 0.01$

表4 新人看護師のコミュニケーション尺度とPCエゴグラムの関連

(n=20)

	傾聴	共感	判断	表出
CP	0.6**	0.1	0.4	0.4
NP	0.6**	0.1	0.2	0.3
A	0.5*	0.1	0.3	0.4
FC	0.3	-0.2	0.2	0.4
AC	-0.3	0.2	-0.2	-0.3
PC	0.3	-0.3	0.2	0.2

Spearman順位相関係数

\*  $p < 0.05$  \*\*  $p < 0.01$



## V. 考 察

本研究では、新人看護師のコミュニケーションスキルとPCエゴグラムの関連について分析を行った。1. 新人看護師のコミュニケーションスキル尺度について、2. PCエゴグラムについて、3. 新人看護師のコミュニケーションスキルとPCエゴグラムの関連について考察を行い、さらに必要な支援についても検討した。

### 1. 新人看護師のコミュニケーションスキル尺度について

新人看護師のコミュニケーションスキル尺度の要因別では、『傾聴』が最も高く、次いで『共感』、『表出』と高く、4要因の中で最も低かったのは『判断』であった。これは、看護学生を対象とした先行研究<sup>5)</sup>と同様の結果であった。

『判断』が最も低かった理由として、看護学生は対象との関わりにおいて、客観的な状況判断をするための知識や経験が乏しく、患者や他の人の言動に左右されやすい<sup>5)</sup>ことが挙げられており、新人看護師の場合も調査時期が6月と卒業して間もない時期であることから、看護学生と同様に客観的な状況判断をする知識や経験の乏しさが影響したと推察した。『判断』の「相手の反応により自分の意図を調節する」が最も低く、この時期は相手に応じて対応できなかつたり、患者や他人に合わせるができなかつたりと自分で意図的に行動できない時期であると推察された。

『表出』の「ケアの目的や意図を伝えることができる」、「丁寧な言葉遣いができる」という基本的なスキルはできていると高く評価していた。しかし、『表出』は説明スキルの一つであり<sup>5)</sup>、「ケアの目的や意図を伝えることができる」は専門的知識が不足している状況では患者・医療者間の理解が得にくい場合もある。そのため、卒前教育の段階から、グループ討論、事例検討などを通して相手の理解を確認しながらコミュニケーションを行うという経験を支援することは有効と考える。

入職後3か月の新人看護師のコミュニケーションスキルの特徴としては、コミュニケーションプロセスを通して『傾聴』、『共感』の過程で高い能力を発揮するが、その反面『判断』が苦手な傾向となり、再び『表出』で改善できていた。そのため、コミュニケーションを進めていく中で、『傾聴』、『共感』まで経過して、次の『判断』する際

に相手の反応に左右されて正しいアセスメントができない可能性が推測された。

新人看護師の12カ月の看護実践能力の変化を自己評価で観察した報告<sup>13)</sup>では、対人関係・コミュニケーションの実践能力が就職直後に最も高く、3か月後に低下し、6か月後、12か月後に上昇していた。その理由には、患者の権利としてのプライバシーを守る、看護ケアの前に患者にきちんと説明するなどの理論的側面が看護基礎教育課程で養われ、臨床に入ってさらに高まったと報告している。本研究においても入職3ヶ月後の新人看護師は、看護学生の臨地実習で受け持ち患者1名という状況から、就職して複数の患者にチーム体制で看護実践をするという変化にとまどい、「こんなはずではなかった」とリアリティショックで自己評価が低くなったと推察された。

これらの背景から、入職後3ヶ月は新人看護師のコミュニケーションスキル向上に影響しやすい時期といえる。この時期は、コミュニケーションを含めた看護実践技術力の到達度が70~75%と入職後6~12ヶ月後と比して最も低く、周囲のサポートを得て知識が補強されて技術力を向上させている<sup>14)</sup>といわれている。そのため、新人看護師の支援体制としては、自己評価が低下しやすい入職後3ヶ月に、先輩看護師からできたことへの保証、セルフコントロールする能力の育成が必要である。

さらに、新人看護師が次の段階に進むことができるように援助が必要なコミュニケーションの知識や技術の確認など、具体的な場面を通したきめ細かい研修体制も重要と考える。

### 2. 新人看護師のPCエゴグラムについて

PCエゴグラムでは、NP、ACが標準値より高く、CP、A、FC、PCが標準値より低いという結果からNPおよびAC優位のN型を示していた。これで対人交流においてどの自我状態に関わっているかを確認できる。N型は、看護職の特徴でもあり養育的なNPが高い人が多いという報告<sup>8)</sup>を支持する結果となった。さらに本研究ではAC優位でもあることから、対象者は順応性が高いだけでなく、自己抑制も高いという特徴が考えられた。AC優位となった原因としては、新人看護師は看護ケアを自分の判断で行うことが少なく、先輩看護師の承認を得なければできないことが多いことが影響していると考えた。さらにFCが標準値より低いことは、自由奔放で本能的な部分を抑えて

協調性を重視しているために自己抑制が強くなっていると考えられた。

本研究の結果は、PCが標準値より低いため、PCを高める働きかけが必要である。しかし、PCがNPを除くすべての自我状態と関連が強かったことは、PCを強化することで自我状態の偏りをなくし、適切な時に適切な自我状態を発揮できることになり、ストレスに陥りにくくなると考える<sup>15)</sup>。PCの強い人は、自分を肯定的に感じて、自尊感情が強い、自己統制力が大きい、仕事への強いコミットメントをもっているなどの傾向がある<sup>12)</sup>。PC強化の具体策として、新人看護師が自らの自我状態を知り、セルフコントロール能力にアプローチする介入も効果的と考える。

また、新人看護師のCPがAを除く4つの自我状態と関連があったことは、標準値より低い結果ではあったがCPを強化することで他の自我状態を高めることができる可能性もみえた。CPの低い人は、ルーズになりやすく、相手のことに無関心になるといわれ、医療事故、医療ミスにつながりやすいと報告されている<sup>16)</sup>。そのため、新人看護師に看護技術の指導を行う際には、今回のCPの結果を踏まえリスクマネジメントに配慮した対応を施設側は考慮していくことが必要である。

### 3. 新人看護師のコミュニケーションスキルとPCエゴグラムの関連

新人看護師のコミュニケーションスキルとPCエゴグラムでは、『傾聴』とCP、NP、Aに関連があったことから、看護職に必要なNPとAを備えた新人看護師ほどコミュニケーションスキルとして『傾聴』を活かしていると考えられた。『傾聴』とCPの強い関連から、新人看護師は『傾聴』のように看護基礎教育課程で学んだ基本的なコミュニケーションスキルを活かしつつ自らを冷静に見直す行動につなげることができていると推察された。

本研究では、看護学生を対象としたコミュニケーションスキル尺度の4要因とPCを除く5つのエゴグラムに有意な関連があった先行研究<sup>5)</sup>と異なる結果となった。理由としては、対象者が看護学生と看護師という違いだけでなく、対象者の教育背景および対象数による違いも考えられた。さらに対象者のコミュニケーションスキルの『共感』が『傾聴』の次に高い得点であったにも関わらず、自我状態との相関係数が低かったことは、『共感』

は個人の自我状態に関らず常に患者の状況に応じて実践していることが窺える。また対象者のPCが標準値より低いため自我状態の切り替えが上手にできているとは考えにくく、対象者がストレスを抱えた状況下で対処しているのではないかと推察された。

本研究では、新人看護師のコミュニケーションスキルは『傾聴』を活かしていること、その背景には、養育的なNP、理性的なA、批判的なCPという自我状態の影響が示唆された。

### 4. 研究の限界と今後の課題

本研究の限界として、調査対象が一施設と限られた人数であり、しかも横断的であったことから、今回の結果を一般化するのは限界がある。その一方、調査時期が入職後3ヵ月とリアリティショックに陥りやすい時期であり、現実的な自己評価ができる時期でもあり、新人看護師が自らのコミュニケーションスキルを客観的に評価できているとも考える。今後の課題として、PCエゴグラムの特性によるコミュニケーションスキルの推移を縦断的に調査し、自我状態に応じたセルフコントロールができるような支援を導き出すことである。

## VI. 結 語

新人看護師のコミュニケーションスキルの問題点として、『傾聴』、『共感』は実践できているが、『判断』ができていないことが明らかとなった。

その背景に新人看護師の自我状態として養育的で順応性がある反面、自己抑制しやすい傾向と考えられた。さらに、入職後3ヶ月の新人看護師は自分で判断して実践する看護処置が少ないという臨床状況からコミュニケーションスキルの『判断』できないことにつながっていることが示唆された。

## 文 献

- 1) 厚生労働省：「新人看護職員研修に関する検討会」報告書、平成23年2月14日、<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200000128o8-att/2r985200000128vg.pdf>、アクセス2012年3月15日
- 2) 社団法人日本看護協会：新卒看護職員の入職後早期離職防止対策報告書、2005年 <https://www.nurse-center.net/nccs/scontents/1>、アクセス2012年3月10日
- 3) 淘江七海子：看護職における言語的応答能力測定尺度の作成とその信頼性・妥当性の検討、日本看護

研究学会雑誌26(1)：55-65、2003

- 4) 宮澤朋子、松本じゅん子:新卒看護師の精神的未熟さ・弱さに対するスタッフ看護師および新卒看護師自身の認識、長野県看護大学紀要10：69～78、2008
- 5) 中村小百合、足立はるゑ、天野瑞枝他:看護学生のコミュニケーションスキル育成に関する研究（第1報）ーコミュニケーションスキルと自我状態との関連一、日本看護医療学会雑誌 9 (2)：18～26、2007
- 6) 村中洋子、高橋充、鈴木克明:対人コミュニケーション・スキルタスク分析とエゴグラムを活用した診断システムの開発、日本教育工学会論文誌、30(4)：343～353、2007
- 7) 杉田明子、太湯好子、酒井恒美他:短大看護学科生の東大式チェックリストによるエゴグラムに関する基礎的検討、日本看護協会学会論文集第22回看護教育: 204～206、1991
- 8) 太湯好子、兼光洋子、岡野一伸子:機能的自我状態モデルにおけるPermeability Control Powerと看護適性とメンタルヘルスとの関連、交流分析研究26(2)：152～157、2001
- 9) 中村小百合、足立はるゑ、天野瑞枝：看護学生のコミュニケーションスキル育成に関する研究（第2報）ーピークエゴグラムとボトム・エゴグラムからの分析一、日本看護医療学会雑誌 9 (2)：27～32、2007
- 10) 稲光哲朗、篁宗一、エゴグラムからみた看護学生の成長過程-1年次と4年次のPCエゴグラムの比較-、交流分析研究32(1)：73～80、2007
- 11) ジュリア・バルザー・ライリー（渡部富栄訳）：看護のコミュニケーション原著第5版、エルゼビア・ジャパン、pp29、東京、2007
- 12) 桂戴作、新里里春、杉田峰康：PCエゴグラム手引き、pp16～20、適性科学研修センター、岡山、1997
- 13) 高島尚美、樋之津淳子、小池秀子他：新人看護師12ヵ月までの看護実践能力と社会的スキルの修得過程-新人看護師の自己評価による-、日本看護教育学会誌13(3)：1～17、2004
- 14) 寺岡幸子、宮脇由紀子、高瀬美由紀他：新人看護師における看護実践技術力の入職後12か月間の変化、日職災医誌58:294～300、2010
- 15) 山本真理子、野口有紀子、村上正人他：自我状態の透過性調整力についての研究-PCEによる検討（第1報）一、交流分析研究25(1)：89～94、2000
- 16) 金山時恵、木下香織、栗本一美他:看護学生の実習前の自我状態の傾向、新見公立短期大学紀要24:43～48、2003